

全国地方教育史学会第 47 回大会の案内をお送りします。より参加しやすく、多くの研究が生み出されることを目指す学会改革の一環として、本大会から**大学院・非常勤職会員の研究発表者の参加費・懇親会費用無料**が運用されております。結果的には、**大会校のご配慮で全参加者の参加費無料（！）**となりました。一人でも多くの会員のみなさまと、晩春から初夏に移ろう札幌でお会いできることを心待ちにしております。

I. 第 47 回 大 会 に つ き ま し て

大矢 一人（藤女子大学）

第 47 回大会は北海道・札幌の藤女子大学を中心に開催いたします。藤女子大学は、淵源である札幌藤高等女学校が 1925 年に北海道初の 5 年制高等女学校として創立され、戦後、藤女子専門学校が 1947 年に、藤女子短期大学が 1950 年に、そして大学が 1961 年に設置されました。2025 年に学園創立 100 周年を迎える北海道唯一の 4 年制女子大学で、「キリスト教的世界観や人間観を土台として、女性の全人的高等教育を通して、広く人類社会に対する愛と奉仕に生きる高い知性と豊かな人間性を備えた女性の育成」を目指しています。

学会の北海道での開催は 2 年ぶり、4 回目です。最初は第 22 回大会（1999 年度）を国学院短期大学で、二度目は第 32 回大会（2009 年度）を北海道教育大学函館校で、そして三度目は記憶にも新しい、第 45 回大会（2022 年度）を札幌エル・プラザで行なってきました。この 4 回という数は、東京（10 回）・愛知（5 回）に続く数と思われます。

一日目の資料見学会は北海道大学大学文書館で開催しますが、これは初めてのことで、大学文書館は、札幌キャンパス内で南側に位置し、クラーク会館の西隣の建物です。正門からは入って少し歩き、さらに小川が流れている芝生の中道を進むとクラーク会館がみえてきます。井上高聡館員のもとで準備をしており、ご覧いただく展示は、同時期に開催している、常設展示「北大生の群像」、「新渡戸稲造と遠友夜学校」、企画展示「数学者桂田芳枝が切り拓いた女性研究者の道」他です。

懇親会は、みなさまご存知の「札幌ビール園」で開催します。バイキングですので、ジンギスカン・ビールなどを思う存分味わっていただけたらと考えております。

二日目は、北海道大学正門から徒歩 15 分程度、地下鉄南北線北 18 条駅から徒歩 5 分の藤女子大学北 16 条キャンパス（文学部）で行ないます。藤女子大学は二学部六学科構成ですが、人間生活学部は石狩市にありますので、お間違えのないようお願いいたします。北 18 条駅からですと、北門や東門（藤女子中学・高等学校側）、そして札幌駅北口からだとも南門からキャンパスに入っていただきます。びっくりするほど小さいキャンパスですが、お許してください。なお、東門に入ってテニスコートの左側には奉安殿が残存しています。昼休みにでも見学していただけたら、と思います。

二日目午前の分科会は、2 つに分けて開催します。去年は 3 教室 14 人発表でしたので、少し減りましたが、会場毎の参加者が多くなると思います。活発な議論が展開されることを期待します。なお、会員控室・シンポジウム会場なども含めてすべて 5 階という同じフロアで行いますので、わかりやすいと思います。女子大ゆえ、男子トイレは各階に一つずつしかありませんので、別の階へご足労願う可能性もありますが、その点はお許してください。

午後のシンポジウムは、「地域産業の発展に果たした中等学校の役割」をテーマとして開催します。近代日本において、中等学校は地域産業の振興・発展のための人材源でもありました。地域産業への人材供給と言うと、まず実業学校を想起するでしょうが、それだけではなく地域産業が中学校の設立に尽力したことや、女学校出身者が商業分野などに進出するなど、地域産業との関わりや果たした役割を総合的に検討してみたいと考えます。具体的には、まず佐藤環会員が、中等学校と地域に関する概説を行い、さらに、茨城県の実業学校と女学校の地域貢献について報告します。続いて加藤善子会員が、兵庫県神戸市において、(地域産業による私立実業学校・中学校の設立も考慮しながら)主に旧制中学校卒業生の進学行動を通して、実業系の進路が持った社会的意味を考察します。最後に、竹村俊哉会員が、青森県における実業学校と地域産業との関わりを、弘前工業学校と青森工業学校を中心として考察し、農学校に関しても若干言及する予定です。司会は菱田隆昭会員に担当していただきます。

新型コロナウイルスに翻弄された年月を超え、公立図書館の開放などもようやく進みつつあります。地方教育史研究に見通しを持つことのできる機会として、北海道・札幌での大会がその役割を果たすことを願っております。みなさまのお越しをお待ち申し上げます。

※初日の史料見学会は「北海道大学大学文書館」、二日目の研究発表・シンポジウム・総会は「藤女子大学 北16条キャンパス」で実施します。会場が異なりますのでくれぐれもお間違いのないよう、お願いいたします。アクセスの詳細は以下をご参照の上、プログラムもご覧ください。

※なお初日、二日目ともに駐車場のご用意はございません。自家用車でのお越しはご遠慮くださいますよう、お願い申し上げます。

大会日程表

6月1日(土曜日) 大会初日 北海道大学大学文書館、札幌ビール園	6月2日(日曜日) 大会2日目 藤女子大学新館5階
14:00: 北海道大学クラーク会館前に集合。 ※会館の位置は北海道大学HP(札幌キャンパスマップ)でご確認ください。 https://www.hokudai.ac.jp/introduction/campus/campusmap/ ・北海道大学大学文書館にて、常設展示「北大生の群像」、「新渡戸稲造と遠友夜学校」、企画展示「数学者桂田芳枝が切り拓いた女性研究者の道」他を見学します。	8:30: 受付開始(5階奥のエントランス)。参加費無料につき年会費(¥4,000)のみ。
16:30: 終了。タクシー、公共交通機関等で懇親会場に移動。	9:00: 研究発表(551、552室)。 12:00-13:00: 休憩。昼食は会員控室(561室)のみでお願いします。 〔※12:00-13:00: 第1回全国幹事会・常任幹事会(553室)。〕
17:30: 「札幌ビール園」総合受付に集合。	13:00-15:20: 公開シンポジウム「地域産業の発展に果たした中等学校の役割」(560室)。
18:00: 懇親会開始。	15:30-16:00: 総会(560室)。
20:00: 懇親会終了。	

◎懇親会は、「札幌ビール園」(〒065-0007 札幌市東区北7条東9丁目2-10)で開催しま

■ 研究発表・シンポジウム・総会 ■

〈大会 2 日目 6 月 2 日 (日曜日)〉 藤女子大学新館 5 階

※研究発表 30 分の内訳：発表 25 分＋質疑応答 5 分

研究発表 9:00-12:00

第 1 会場：551 教室

司会：三上敦史（早稲田大学）・池田雅則（兵庫県立大学）

(1) 9:00-9:30

米国で日本人の華僑差別に反対した竹川藤太郎は、もと少年民権家か
——山梨・徽典館史と自由民権運動史のクロスから考える——

岡本 洋之(兵庫大学)

(2) 9:30-10:00

小学幼稚課を設置した飾磨県の教育政策

義根 益美（明石市市民生活局文化・スポーツ室）

(3) 10:00-10:30

震災と雑誌投稿欄—少年読者、少女読者の繋がり—の形成史—

田中 卓也(育英大学)

(4) 10:30-11:00

第一次大戦後の山口県における青年団の組織化と実業補習学校の普及
---「戦後準備共励」を契機とした展開過程---

三羽 光彦（芦屋大学）

◎ 11:00-11:30

全体討論

研究発表 9:00-12:00

第 2 会場：552 教室

司会：吉野剛弘（埼玉学園大学）・米田俊彦（お茶の水女子大学）

(5) 9:00-9:30

明治期尋常中学校史料の保存状況について—西日本地域調査結果—

小宮山道夫(広島大学)

(6) 9:30-10:00

長野県師範学校第二部二年制の成立と背景

丸山剛史（宇都宮大学）

(7) 10:00-10:30

岩手県立水沢高等女学校生徒の通年勤労働員再考

逸見勝亮（北海道大学大学文書館）

(8) 10:30-11:00

戦後六・三制発足期の旧清水市における新制中学校独立校舎建設に関する研究

古川和人(東京女子体育大学)

(9) 11:00-11:30

戦後新制高等学校における学校農業クラブの形成に関する一考察 —北海道の事例—

山片 崇嗣（芦屋大学）

◎ 11:30-12:00

全体討論

テーマ：「地域産業の発展に果たした中等学校の役割」

パネリスト：佐藤 環 (茨城大学)
 加藤 善子 (信州大学)
 竹村 俊哉 (青森県立黒石高等学校)
 司 会：菱田 隆昭 (和洋女子大学)

- 趣旨：本学会では、地方の産業振興に関するテーマで研究やシンポジウムがなされてきた。過去の『地方教育史研究』を調べてみると、34号(2013年)に「福岡県における地域と大学の歴史」「明治期、地域の学校・文化・産業と華族」、43号(2022年)に「高等・専門教育機関と地域社会」と、地域社会と高等教育機関の関係を扱ったシンポジウムの小特集がなされている。このように全国地方教育史学会では、地域と大学等の関係に対する研究の蓄積がなされている。また、第42回大会(大東文化大学)でのシンポジウムでは「地域と学校」を題目として、学校は地域から何を求められていたのか、学校は地域にどのような貢献をしたのか・しなかったのかについて様々な意見が提起された。

今回は、地域産業の発展に果たした「中等学校」を考えてみたい。地域産業への人材供給と言うと、まず実業学校を想起するであろう。しかし、それだけではなく地域産業が中学校の設立に尽力したことや、女学校出身者が商業分野などに進出するなど、地域産業との関わりや果たした役割を総合的に検討してみたいのである。

1. 佐藤：中等学校と地域に関する概説。茨城県の実業学校と女学校の地域貢献。
2. 加藤：兵庫県神戸市において、(地域産業による私立実業学校・中学校の設立も考慮しながら)主に旧制中学校卒業生の進学行動を通して、実業系の進路が持った社会的意味を考察。
3. 竹村：青森県における実業学校と地域産業との関わりを、弘前工業学校と青森工業学校を中心として考察し、農学校に関しても若干言及する。

総 会 15:30-16:00

会場：560 教室

議事案：会務報告 2023年度決算案 2024年度予算案 研究倫理規範 役員体制

過去の大会記録

大会	日程	【上段】資料見学会	シンポジウム
		【下段】大会校(会場)	
46	2023年5月27日(土)・ 28日(日)	甲南学園史資料室 甲南女子大学	「地域の教育史資料の収集・保存・ 活用」
45	2022年5月21日(土)・ 22日(日)	北海道立公文書館・北海道立図書館北方 資料館 札幌エル・プラザ	「都市の教育問題」
44	2021年5月30日(日)	コロナ禍によりWEB開催に変更	「高等・専門教育機関と地域社会」
43	コロナ禍により開催中止(当初予定:資料見学会は甲南学園史資料室、会場は甲南女子大学)		
42	2019年5月25日(土)・ 26日(日)	大東文化大学書道研究所・大東文化歴史 資料館 大東文化会館	「地域と学校」

~~~~~  
◆寄贈図書類（2024年3月12日事務局到着分）

- ・義根益美会員より：明石市立文化博物館『企画展くらしのうつりかわり展～小学校生活編～』（図録、2024年1月27日刊行）

はじめに／小学校のうつりかわり／小学校の思い出／いろいろな教材／

論稿：義根益美「子どもが描いた将来の職業・理想的人物・最も恐れるもの～明治30年代後半と令和の子どもの記述をもとに～」

◆会費納入について

- ・金額入り（¥4,000）の振込用紙が入っている方は昨年度までの会費納入が終了しておりますので、2024（令和6）年度分を納入して下さい。
- ・金額なしの振込用紙が入っている方は、封入したメモをご覧になり、未納分も納入して下さい。入金後、当該年度の『地方教育史研究』刊行後に発送いたします。

【紀要のバックナンバーについて】

紀要のバックナンバーを購入することが可能です。1部につき1,000円（送料込み）です。在庫及び詳細については、学会HP内の「紀要」→「『地方教育史研究』バックナンバー」をご参照ください。

---

## 全国地方教育史学会 事務局

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

学習院大学文学部教育学科 須田将司 研究室内

TEL/FAX 03-5904-9341

E-mail [masashi.suda@gakushuin.ac.jp](mailto:masashi.suda@gakushuin.ac.jp)

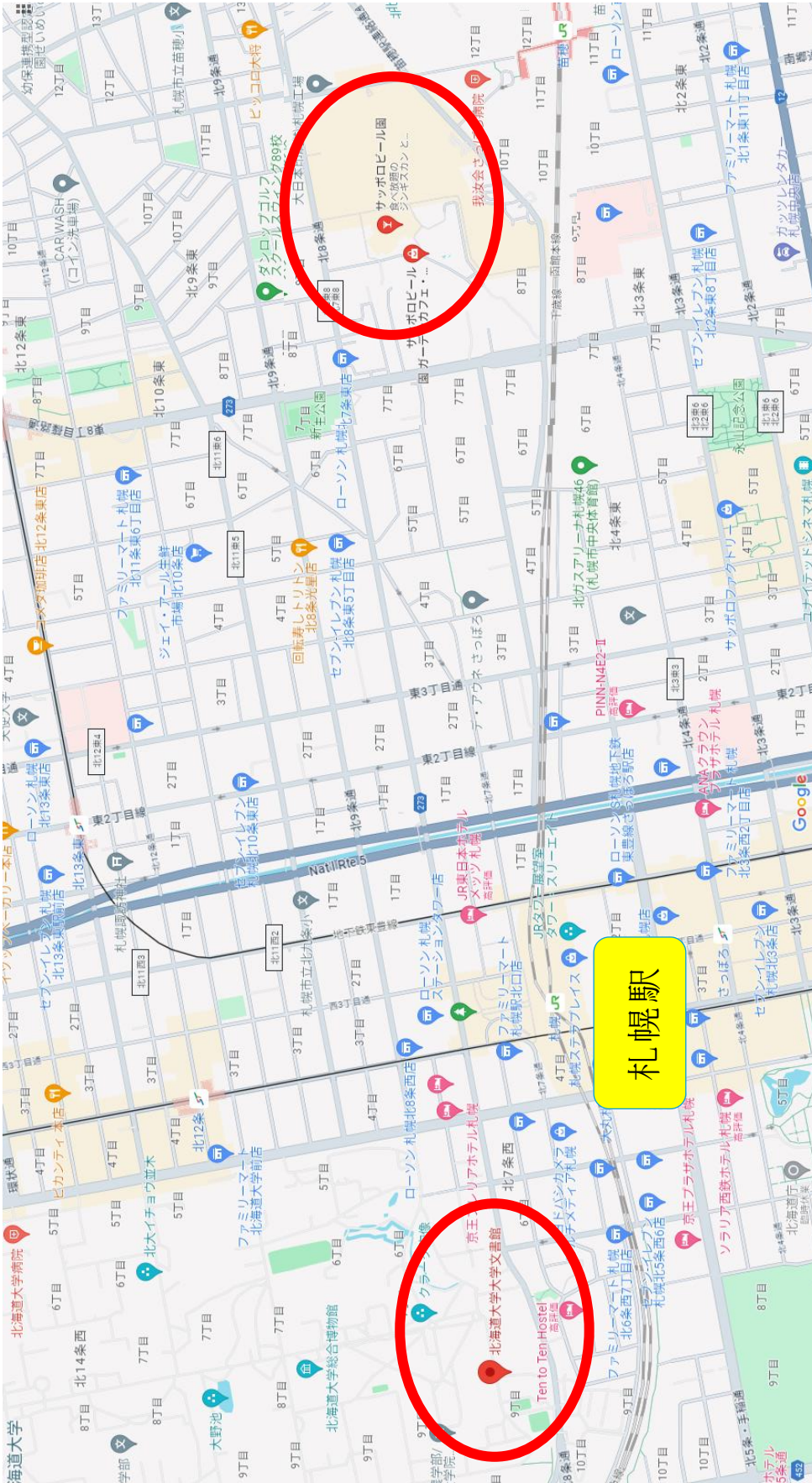
公式HP <https://assoc-zckyoiku.w.waseda.jp/>（4月以降）

<https://w3.waseda.jp/assoc-zckyoiku/>（3月まで）

---

★Google Map より

一日目（6月1日）：北海道大学文書館&サッポロビール園



二日目（6月2日）：藤女子大学北16条キャンパス

